

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100677		
法人名	社会福祉法人川水流福祉会		
事業所名	グループホームひえいの郷	ユニット名	A棟
所在地	宮崎県延岡市北方町川水流卯1810-番地-24		
自己評価作成日	平成23年5月30日	評価結果市町村受理日	平成23年8月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosisip/infomationPublic.do?JCD=4572100677&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成23年6月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた環境のなかで四季折々の草花や野菜作りをすることによって昔を思い出し、意欲の向上につなげている。また、地域に出かける機会を多く持ち、地域とのつながりを感じられるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が、旧知の人達と交流できる日常的な外出や、気がかりをふっしょくし安心するオリジナル外出支援が行われている。自家製のパンを焼き、食事の楽しみが増している。毛筆習字は昔を思い出すとともに、市のフェスティバルに出展する意欲の向上になっている。ホームの内外には、絶えず多くの花があり、訪れる人も心が穏やかに癒される思いになる。職員は、利用者の思いをホームの運営に積極的に取り入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング等のなかで話し合い、利用者の方も「ゆっくり、一緒に、楽しく」過ごしていただけるように職員が共通した意識を持ち、実践に繋げている。	職員は利用者一人ひとりの思いやペースに合わせ、寄り添い共に過ごすことを常に共通意識として確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	機会があれば地域に出かけ、地域とのつながりを継続できるよう支援している。職員も地域の行事に参加し交流を図っている。	月平均10日位は外出し、地域の人たちが買い物で集まる店に立ち寄っては世間話に加わったり、地区行事に書道作品を出展するなど、交流が図られている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人クラブ等の訪問により、利用者の方の暮らしぶりをみて頂く機会がある。そのことで利用者の方も地域とのつながりを感じ取られている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動や行事への参加、日常の様子を報告し、それについての意見などを参考にしたりして実践に繋げている。また、結果や経過を報告するようにしている。	定期的に隔月ごとに開催し、ホームが目指そうとする課題を協議し、得られた意見を実現に取り入れている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも出席して頂き、様子を伝えており、色んな意見を頂き、参考にしている。又、地域の情報なども伺い、活動につなげるようにしている	市の担当者は行事などの情報を提供し、利用者が参加しやすい配慮を講じ、積極的な参加を促している。ホームも外部評価結果や目標達成計画を相談し、指導を受けるなど連携が築かれている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修や資料などで認識を深め周知徹底し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関等も常に開放し、出入り自由となっている。	身体拘束について理解し、玄関は常時開放し、身体拘束をしないケアが行われている。不穏な状況にあつては、寄り添いや遠目の見守りなど、利用者の個々の思いをくみ取り対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については徹底している所であるが、さらに研修の機会を増やし、職員が常に意識を持ちケアにあたり、一層の周知徹底を図っていく必要があると考えている			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の利用があるので、権利擁護の知識を内部研修などを行うことで、理解を深めるようにしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書を基に契約内容の説明を行い、疑問な点や不安に思っていることを伺うようにしている。また、いつでも聞いていただけるようお話ししている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際や家族会の開催時など、家族からの要望や意見を聞くようにしている。玄関に苦情受付ボックスを設け、要望など受ける体制を作っている。本人からも伺うことで、行事や活動に反映させている。		家族会や家族参加の行事、来訪や介護計画作成時など、家族が気軽に希望や意見が出しやすいよう、職員と利用者や家族の人間関係づくりに配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティングのなかで出された意見などをまた、その中で話し合うことで、共通した情報をもって取り組むことが出来ていると感じている。		併設の施設職員も含めた全体会議やホームの会議が発言しやすい雰囲気の中、毎月定期的に関係され運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりをよく把握し、その人に応じた助言をされている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月2回、内部での研修を行っており、外部研修の際はミーティングや職員会議などで報告し、質の向上に努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の際には、他事業所の職員との情報、意見交換などを通して、交流を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話する機会を多く持ち、不安なことがあればじっくり話を聞き、不安を和らげることが出来るようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や家族会等で、家族が不安に思っていることや要望などを聴いて理解するよう努めている。また、家族に状況等を報告することで安心してもらえるようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人に必要なサービスを提供できるよう職員間で話をしている。家族からもお話を伺うようにしている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	分からないことを教えて頂いたり、職員の様子を見て自ら手伝ってくれる方も居る。一緒に笑ったり悩んだり、利用者が職員の心配をしてくれることもある。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子などを家族に報告し、職員だけでは対応が困難な場合には、家族に協力をお願いしている。行事によっては参加をお願いすることもあり、協力していただいている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや買物では地域に出かけ、関わりを持つようにしている。また、個人の行きたい所に出かける機会を設け、地域とのかかわりを継続するようにしている。	日常的な外出の機会も多いが、利用者個々人が今、行って見て安心したい所にも出かけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、一人ひとりを把握し、行事や活動などを通じて、利用者同士が円滑な人間関係を築けるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば関わりを持つようになっている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを使い職員間で情報を共有し、支援につなげている。		職員は、研修やミーティングで認知症ケアを研さんするとともに、センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント)を用いて、職員の更なる資質の向上に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人に話を伺ったり、家族からも本人の生活歴や思い、生活環境等、様子を伺い、これまでの生活に近いものが継続できるよう支援に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に記録し、状態の把握に努めるようになっている。より明確な記録が出来るように研修を行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から要望や望む暮らしかたを伺い、ケース検討会を開き、計画に反映させているが、家族からの意見が少ない状況である。		利用者および家族の意向の把握に努め、介護計画に反映させている。モニタリングの結果、3か月ごとに介護計画を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録を行い、観察に努め変化を見逃さないようになっている。記録を基にケース検討会を行い、計画につなげるようになっている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要があれば併設施設の看護職が対応する体制がある。習字教室や大型車を借りてみんなで出かけたり、合同の行事の開催など併設施設との関わりが多い。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	災害の発生に備え、地区の消防団の協力体制や地域の美容院からきていただいたりして地域とのつながりを大切にしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	面接時に協力医の説明を行い、同意が得られれば往診を受けている。医師が毎週来園し、変化が見られた場合は相談したり対応していただいている、早目の対応を取るようになっている。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	資格を持った職員が対応。また、併設施設の看護職の協力体制がある。介護職は、常に相談しながら利用者が安心して暮らせるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診時や何かあった場合は協力医に相談しており、情報交換に努めている。また北方医院でも他医療関係と連携をとっていただいている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状でのターミナルケアは困難であるかもしれないが、重度化や終末期のあり方についての研修を行うことで、職員の意識付けができるようにしている。		職員間ではターミナルケアについて検討しているが、不安をぬぐえない部分もあり、具体的な方針には至っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し、研修を行って備えている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回の避難訓練を実施。昼間、夜間想定などそれぞれの状況に応じた避難訓練を行い、記録し、次に繋げている。地区の消防団も訓練に参加していただくなど、協力体制も出来ている。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報に関しては、入所時に個人情報同意書を取っており、守秘義務の徹底を図っている。人格を尊重した声かけにも配慮している。		人格を尊重した言葉かけに留意し、特に食事、入浴、排泄では誇りを損ねない支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聞きながら生活していただいている。ゆっくりと話を聞いたり、自分で意思決定できるような声かけに努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の能力に応じ、自己決定をしていただいている。働きかけるが無理強くないようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は二ヶ月に一度、本人の希望を聞きながら行っているが、家族と共に馴染みの美容室へ出かけられる方もいる。外出の際には自分で洋服を選んで頂いたり、身なりを整えたりされている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみとなるよう、献立を立てるときには好みものを聞いたり、食事が出来たときには味見などをしてもらっている。地域のお店に出かけ、新鮮な野菜を選んでもらったり、また、食器の配下膳など職員と一緒にしている。		職員と一緒に食材の買い物や、自家製パン作りをしたり、配下ぜん、机ふき、食事前後の声かけリーダーなど、全員が役割を持ち、楽しい食事になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給は時間を決めて、していただいているが、それ以外でも自分の飲みたい時には自由に飲んで頂いている。食事の摂取状況も記録を行い、把握に努めている。毎月1回、体重測定を行い、増減に注意している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの誘導をしており、一人では出来ない方場合は介助を行っている。上手く口を開けられない時でも時間をかけ、落ち着いた状態ですることに対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの訴えがある場合やサインを見逃さないようトイレ介助を行っているが、訴えがない場合でも排泄状況を記録して、排泄パターンを知り、トイレ誘導している。	排泄は自室のトイレで、個々の排泄介護に応じて支援されている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の献立に食物繊維を多く含んだ野菜を取り入れたり、おやつに牛乳を毎日飲んで頂いている。毎朝腹部マッサージの時間を設けている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人に入浴の希望や時間、好みの温度などを聞いて把握し、入浴を楽しんでいただくよう支援している。また、季節にあった菖蒲湯やゆず湯、そのほか入浴剤などを使い、楽しんでいただいている	利用者が入浴の順番、時間帯を話し合っている。個々に応じた洗身介護の下、利用者は毎日の入浴を楽しみにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	早く休む方、遅くまでテレビを見られるかた等が他の方に迷惑にならないよう配慮しながら自由にしていただいている。夜間不安になる方にはじっくり話を聴くようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、要領はお薬手帳で確認している。服薬の際は、確実な服薬の為に声を出して確認を行っている。薬について必要があれば、看護師や病院に問い合わせを行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が好きなことを把握し、日々の活動の計画に生かしている。また、カレンダーをめくる方やテーブルを拭いてくれる方、洗濯物をたたんでくれるかた、食器洗いの手伝いをしてくれる方など、夫々が役割をもって生活されている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけたり、買物やドライブなど、園外にも出来るだけ出かけるようにしている。本人の出かけたいところに一日付き添い、出かける機会を設けている	月10日位は、買い物や利用者の希望する所に外出している。外食や消防出初め式の見学や家族同伴の遠足など、年間行事を含め多くの外出が支援されている。		

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物に行かれた時には、職員が払わず、本人に払っていただくようにしている			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった場合はかけてもらっている。家族より電話があれば取り次いでいる。本人が活動のなかで書かれた手紙を郷の便りと一緒に家族に郵送している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や室内などに季節の花々を飾ったり、壁飾りを活動で製作し、室内を飾ったりして居心地の良い環境作りに配慮している。		ユニットごとに居室入り口が和、洋風で変化を持たせている。高台にあるホームの広いリビングは、川からの涼風や対岸の景色を望むことができる。バルコニー、中庭や菜園にも出入りでき、開放的で居心地良く過ごせる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にたたみのスペースやホールに椅子やテーブルを置き、自由に過ごしていただけるように配慮している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真やぬいぐるみを飾る方、家から衣装箱をもってこられたり、本人が使い慣れたものを置き、落ち着いて過ごせるよう配慮している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋に手すり付きのトイレ、浴室にも手すりをつけている。居室のドアは引き戸、洗面所は車椅子でも使いやすいタイプのものを用意している。			